

2021年(令和3年)3月23日(火曜日) 夕刊 読売新聞 4版 2

かんさい サーチ TUE

SDGs 未来への約束 action

食器も完食 ごみ減らす

「食べられる」カップ、ストロー、おむしりを使い捨てに替わってしまった日常の感覚を、楽しみながら変えるきっかけになればおもしろい。そんな思いで、だが循環が閉まるまで食べられる食器をいろいろ試しに口にしてきた。なぜうしろものを作ろうと決めたのかそれ、おむしりに込めた思いも尋ねた。どんな夢や、おいしいの？と訊ねてみる。

（編集部員 橋本麗人）

カッキーで
「ラビニクス」が展開するR・Jカフィー（大阪市北区天神橋）は、食べられるカップ「エコラビ」を展開する。クッキー生地や小麦粉不使用のケルナコーヒーのアイデアも、社長の橋本麗人が、夫婦でカフェを始めたのは2007年。濃厚な粉力のエコラビの専門店だが、「おいしい」が最大の強みで、当初は「おいしい」と西にのみ。

環境がテーマの強しに増した。また、再利用できる食器が用いられていたものの、水や洗剤を多量に使う。エスプレッソマシンを減らして、高圧のアイデアから、逆にカッキーの中心に注いでみてはという。アリンカップを使って試み、内蔵を砂糖でコーティングすることで耐水性を持たせ、18年から販売した。SDGsに響かせるお客さんが多い。

井当カップ
木村アルミ箔（大阪市中央区）は、井当に使うお茶を入るカップを手がける。おぼろ昆布風味豊かなお茶を淹れる食べられるカップの販売層が近年伸びているという。18年から販売した。SDGsに響かせるお客さんが多い。

組合合わせ
アイスクリームのモナカ

「SDGs 未来への約束」は4月から毎月1回、3・5水曜日に掲載します。次回は4月7日です。

12 つくる責任 つかう責任

14 海の豊かさを 守ろう

17 パートナースHIPで 目標を達成しよう

プラスチックごみによる海洋汚染が問題化するなど、廃プラスチックに対する関心の高まりを受けて、「食べられる食器」が注目を集める中、弊社の「食べられるうつわ」シリーズも販路が拡大しつつあります。

木村アルミ箔の 木村裕一社長

食べられるカップに いろいろのせて。 焼きのりも、おぼろ 昆布市風味豊か